

令和6年度 東京都内湾水生生物調査 9月鳥類調査 速報

●実施状況

令和6年9月5日に鳥類調査を実施した。調査当日は大潮で、干潮が12:14(49cm)、満潮は05:47(199cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚(東なぎさ)	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
調査時刻	8:55-10:13	10:49-11:49	12:14-13:13
調査時間(分)	78	60	59
天候	晴	晴	晴
気温(℃)	27.8	29.4	30.4
風向	北	南東	-
風速(m/sec)	3.0	2.0	無風
備考	調査開始時は潮位が高かった。干潟とヨシ原の際にゴミや枯草などの漂着物が多かった。	調査開始時は潮位が高かったが、徐々に干出。	公園側は人が多かった。

●主な出現種等

	葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
数が多かった 鳥類上位3種	カワウ(1152羽) ウミネコ(265羽) オオセグロカモメ(143羽)	カワウ(601羽) ウミネコ(144羽) ダイサギ(43羽)	カワウ(65羽) アオサギ(45羽) コサギ(16羽)
備考	・ヨシゴイ、チュウサギ、ダイシャクシギ、ハウロクシギ、オオセグロカモメ、ミサゴ等、重要種として13種を確認。 ・干潟とヨシ原の際でアカミミガメ1匹が見られた。 ・シギ・チドリ類は5種を確認。休息している個体が多く見られた。 ・サギ類はヨシゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギの5種を確認。ヨシゴイは1羽がヨシ原から飛び立つ。 ・干潟でカワウとウミネコ、オオセグロカモメが休息。 ・沖合でミサゴ3羽が休息、飛翔。	・ミサゴ等、重要種として6種を確認。 ・シギ・チドリ類はイソシギ1種を護岸で確認。 ・サギ類はアオサギ、ダイサギ、コサギの3種が、主に干潟で採餌。 ・干潟でカワウの群れが休息。その中にウミネコとユリカモメが混じる。 ・タカ類はミサゴとトビの2種を確認。ミサゴは2羽で、このうち1羽が魚を捕らえて飛翔。	・ゴイサギ等、重要種として7種を確認。 ・サギ類はゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギの4種を確認。ゴイサギは第六台場で幼鳥10羽と若鳥2羽が見られた。第六台場でアオサギ1巣と巣内にいる幼鳥を確認。アオサギの繁殖確認は令和元年5月以来5年ぶりとなる。 ・シギ・チドリ類はキアシシギとイソシギの2種を確認。

●出現種と個体数

No.	目	科	種名	令和6年								重要種 選定基準			
				9月								文化財 保護法	種の*1 保存法	環境省*2 RL2020	東京都*3 RDB2022 (区部)
				葛西人工渚(東なぎさ)			森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園							
				範囲 内	沖合	合計		第六 台場	鳥 の 島	公 園 側	合計				
1	カモ	カモ	カルガモ	29		29	6		4	6	10				
2	カツオドリ	ウ	カワウ	889	263	1152	601	21	44		65				
3	ペリカン	サギ	ヨシゴイ	1		1							NT	CR	
4			ゴイサギ					12			12			VU	
5			アオサギ	10		10	22	21	23	1	45				
6			ダイサギ	29	4	33	43	1	4		5			NT	
7			チュウサギ	2		2							NT	NT	
8			コサギ	24		24	7	8	3	5	16			VU	
9	チドリ	シギ	ダイシャクシギ	1		1								CR	
10			ホウロクシギ	2		2							国際	VU	CR
11			キアシシギ	1		1				1	1			VU	
12			ソリハシシギ	2		2								VU	
13			イソシギ	3		3	2	2	4	3	9			VU	
14		カモメ	ユリカモメ				7								
15			ウミネコ	259	6	265	144		2	2	4				留
16			オオセグロカモメ	143		143								NT	
17	タカ	ミサゴ	ミサゴ		3	3	2							NT	EN
18		タカ	トビ	2		2	1	5	2	2	9				NT
19	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ	1		1	3		1		1				
計6目8科19種				16 種	4 種	17 種	11 種	7 種	9 種	7 種	11 種	0 種	1 種	5 種	13 種

※種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会, 2012)に従った。

*1 文化財保護法：特天=特別天然記念物

*2 種の保存法：国際=国際希少野生動植物種、国内=国内希少野生動植物種

*3 環境省レッドリスト2020：CR=絶滅危惧ⅠA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足

*4 東京都レッドデータブック2023(区部)2023年版：CR=絶滅危惧ⅠA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足、留=留意種

<葛西人工渚(東なぎさ)>

○調査地点の状況

干潟は中程度で、調査中に徐々に広がっていった。



西側の地点より南西方向を見る



○出現種(シギ・チドリ類)

5 種 9 羽のシギ・チドリ類が確認された。ダイシャクシギとホウロクシギは干潟で休息、キアシシギとイソシギは飛翔、ソリハシギは休息と飛翔の両方が見られた。ダイシャクシギは東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠA 類(CR)に、ホウロクシギは種の保存法で国際希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠA 類(CR)に、キアシシギ、ソリハシギ、イソシギは東京都レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



ダイシャクシギ



ホウロクシギ



ソリハシギ



イソシギ

○出現種(サギ類)

ヨシゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギの 5 種が確認された。ヨシゴイはヨシ原から 1 羽が飛び立つ姿が目撃された。チュウサギは干潟で 2 羽が採餌、ほかの 3 種は主に干潟で採餌、休息していた。環境省レッドリストでヨシゴイとチュウサギは準絶滅危惧(NT)、東京都レッドデータブックでヨシゴイは絶滅危惧ⅠA 類(CR)、コサギは絶滅危惧Ⅱ類(VU)、ダイサギとチュウサギは準絶滅危惧(NT)に指定されている。



アオサギ (矢印) とダイサギ



チュウサギ



コサギ

○干潟利用状況

カワウは調査範囲にいた 889 羽のうち 263 羽が干潟で休息していた。ほかにウミネコ 259 羽、オオセグロカモメ 143 羽が休息、サギ類が採餌と休息をしていた。オオセグロカモメは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)に、ウミネコは東京都レッドデータブックで留意種に指定されている。



干潟で休息するウミネコ (矢印) とオオセグロカモメ。後方の黒い鳥はカワウ。

<森ヶ崎の鼻>

○調査地点の状況

干潟は調査中に徐々に広がっていった。



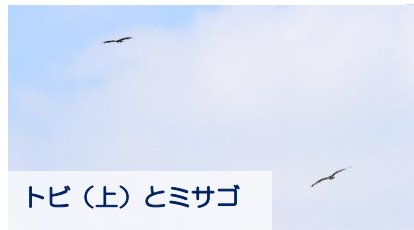
○出現種(シギ・チドリ類)

イソシギ 1 羽が護岸で採餌し、ほかに 1 羽の鳴き声が聞かれた。



○出現種(ミサゴ、トビ)

ミサゴは魚を捕らえて飛ぶ 1 羽と、上空を飛翔する 1 羽が確認された。トビは 1 羽がミサゴとともに飛翔した。ミサゴは環境省レッドリストで準絶滅危惧 (NT)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧 I B 類 (EN) に、トビは東京都レッドデータブックで準絶滅危惧 (NT) に指定されている。



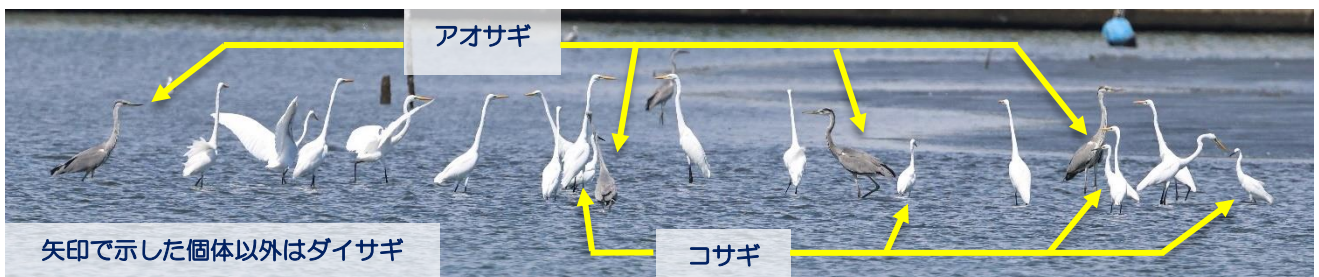
トビ (上) とミサゴ



魚を捕らえて飛ぶミサゴ

○出現種(サギ類)

サギ類は個体数が多く、アオサギ 22 羽、ダイサギ 43 羽、コサギ 7 羽が干潟や護岸で見られ、主に採餌していた。浅瀬に飛来したカワウの群れと共に調査地内を移動しながら、魚を捕食する様子も見られた。



○干潟利用状況

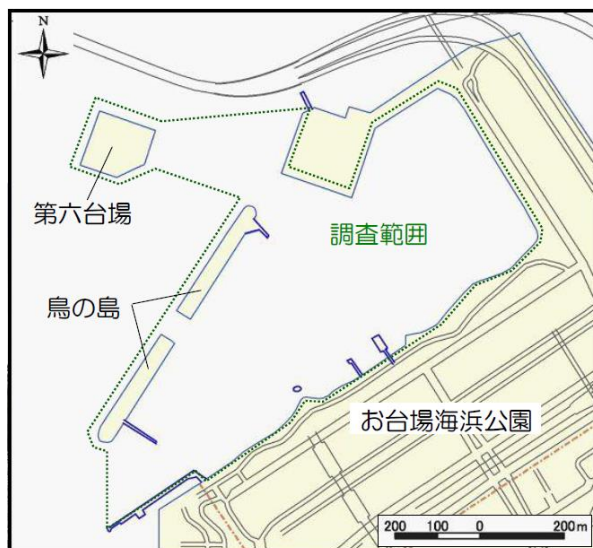
干潟の高い部分にカワウ 601 羽の群れが集まって休息し、その中にユリカモメ 7 羽とウミネコ 144 羽が混じっていた。また、サギ類は干潟全域に分散して、汀線付近で採餌していた。



＜お台場海浜公園＞

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島ではカワウの営巣は終了していた。



○出現種(カワウ)

カワウの個体数は第六台場に 21 羽、鳥の島に 44 羽、合計 65 羽であった。調査前に鳥の島南側の海上で約 1900 羽の群れが泳いでいるのが見られたが、調査開始時にはいなくなっていた。第六台場、鳥の島いずれも繁殖活動は終了しており、使用中の巣は見られなかった。



○出現種(サギ類)

ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギの 4 種が確認された。ゴイサギは幼鳥と若鳥合わせて 12 羽が第六台場で見られた。本種は東京都レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。また、アオサギの営巣が第六台場で確認された(トピックス参照)。



○出現種(シギ・チドリ類)

2 種 10 羽のシギ・チドリ類が確認された。キアシシギ 1 羽がお台場海浜公園で採餌、イソシギ 9 羽が第六台場、鳥の島、お台場海浜公園で採餌、休息、飛翔していた。



○出現種(ウミネコ)

他の調査地点に比べて個体数は少なく、鳥の島からお台場海浜公園の海上で 4 羽のみ確認された。主に人工物や岩の上にとまって休息していた。



<その他>

○ウミネコの繁殖

砂町運河で確認されたウミネコは上空を飛翔する1羽のみで、今季の繁殖は終了したと考えられる。なお、京葉線の高架にカワウ61羽がとまっていたほか、アオサギ1羽とコサギ1羽が周辺で確認された。



ウミネコが営巣する構造物



高架にとまるカワウ

<トピックス>

-第六台場でアオサギが営巣-

8月の調査で、お台場海浜公園の第六台場でアオサギ2つがい営巣している可能性が示唆された。今回の調査で、1巣に少なくとも1羽の幼鳥がいるのが確認された。過去の調査では令和元年5月に14巣が確認されて以降、幼鳥は記録されるものの確実な繁殖記録は途絶えていたため、今回が5年ぶりの繁殖確認となる。別の1巣があった場所はずる植物に覆われ、巣を確認することができなかった。なお、ゴイサギは幼鳥10羽と若鳥2羽の合計12羽が確認されたが、令和6年度はこれまで成鳥の記録がなく、巣も観察されていないことから、外部で繁殖した個体が移動してきたと考えられる。



アオサギの巣



左写真の拡大 アオサギ幼鳥の頭(矢印)が見える



8月の様子(上の写真と同一の巣)



ゴイサギ幼鳥